文藻外語大学留学を終えて

2018 年度長期留学最終報告書
台湾　文藻外語大学交換留学
高知県立大学文化学部文化学科
173050　塩入夕季

私が台湾の高雄にある文藻外語大学に留学したのは、高知県立大学に在籍しているうちの２回生後期と３回生前期の約一年間でした。高校生のころから留学に興味を持ち、大学生生活の目標の一つであった海外留学が達成できたことはとてもうれしく思います。
台湾で留学したいと思ったきっかけは大学に入って第二外国語として中国語を学び始めたことと台湾の文化に興味があったこと、また、比較的少ない資金でも留学ができるということです。親日国だといわれている台湾ですが、実際のところはどうなのか自分の目で見て肌で感じたいという思いもあり、文藻外語大学への長期留学に応募しました。

現地に着いてまず一番初めに驚いたのが周りで話されていたり表示されていたりする中国語が全然理解できないということでした。簡体字と繁体字のちがいは徐々に慣れていこうと考えていましたが、何よりも聞き取れません。日本で１回生の時に授業で基礎的な知識は学んだはずだったのですが、それも結局学んだ「つもり」になっていただけだと痛感せざるを得なかったです。まともに言えたのは挨拶とありがとうとごめんなさいくらいだった気がします。右も左もわからず言葉もわからず最初の３日間は若干の恐怖感を覚えながら生活していました。大学の寮に住んでいたのですが、３人いるルームメイトはみんな台湾人でした。ラッキーなことにそのうちの一人が日本語学科でした。しかし部屋にいるときは日本語は通じず、自分の中国語はとても通じたものではなかったので最初の１週間ほどは英語を使って会話していました。しかしある時急にルームメイトが英語を使うのをやめて私にも中国語で話しかけてくるようになりました。正直なところとてつもなく怖かったです。ああ、もう私は見放されてしまったのか、とも思いました。でも今思うとあの時のルームメイトの判断は私にとってとてもプラスになったし感謝しています。

授業は留学生が対象となる華語中心の授業と日本文化や言語学、英語、日中翻訳などの授業を受講していました。華語中心は毎日２時間ありました。日本語で開講されている授業も生徒の日本語レベルによって中国語の比率も違い、私が一番役に立ったと思うのが翻訳の授業です。正確さだけでなくスピードも求められるのでより実践的でした。

半年経ってだいぶ周りで話していることが理解できるようにはなりましたが次の課題が聞き取れても自分の思っていることがうまく言えないことでした。言い回しが一辺倒になってしまったり、細かなところまでうまく話せなかったりともやもやが募る日々が続きました。その時に始めたのが YouTube で日本のアニメの台湾版を観ることです。台湾のアニメや映画、テレビ番組にはほとんど必ず字幕がついています。字幕を見ればだいたいの意

味はつかめるしそれに合わせて音声を聞き、繰り返して自分で発音してみることで少しずつですがボキャブラリーが増えて日常会話にも活かすことができました。また、文藻外語大学は外国語大学というだけあって様々な言語の学科があります。そして驚くことに英語学科の生徒が日本語も流ちょうに話せたり日本語学科の生徒がロシア語ができたりと自分の専攻以外の言語にも積極的に興味を示して習得していました。彼らを見て私も負けていられないといい刺激を受けて中国語の勉強に励むようになりました。

　また、留学中にたくさんの友達ができました。国籍関係なく中国語でコミュニケーションがとれることがすごく刺激的でした。友達と休みの日には台湾の様々なところへ旅行しました。台湾は小さいですがそれぞれの地域にそれぞれの魅力がありました。景色や食はもちろんその地方の方との触れ合いも旅の楽しみのひとつでした。

フランス人の友達と台中の彩虹村へ

台南のカラフルな塩屋さん

留学中になにか新しいことに挑戦してみたかったので社交ダンスサークルに参加しました。まったくの初心者ではじめたころは言葉もわからなかったので何が指示されて今自分がどう動くべきなのかもわからないこともありましたが、サークルの幹部やコーチの先生、メンバーが一つ一つ丁寧に教えてくれて楽しく活動することができました。練習は大変でしたが、２回あった発表会もどちらも大成功で素晴らしい思い出になりました。文藻外語大学にはサークルがたくさんあってどのサークルも一学期に一回は発表会があり、どのサークルの発表会もクオリティーが高く見ていて楽しかったです。

クリスマスの発表会にて

台湾で生活していて感じたのが自分と同世代くらいの若者たちの国家や法律に対する意見がとてもはっきりしていて SNS を通じて自分の意志を発信したり、デモ活動に参加して表現したりと「自分たちで変えなければならない」という気持ちの強さです。
選挙が近くなるとルームメイトが立候補者たちの意見表明の動画を観ていたり、その内容について議論していたりと関心の高さには驚きました。また、選挙当日はお祭りのように町がにぎやかで選挙というものに対する意識の違いを感じました。日本では、選挙権があるからとりあえず行こうと選挙に対して権利というよりも義務であると感じている人が多いように思えます。国を動かすチャンスだととらえ積極的に参加しようとしている台湾の若者たちを見て私も自分の国の政治や生活にもっと興味関心を持とうと思いました。

最後になりますが、この留学を通して私は本当にたくさんのことを学ぶことができました。いろんな人と関わり、文化を体験し、台湾について知りました。また、普段自分が当たり前に生活している日本のことも外国から見ると新しい発見があったり、「高雄は空気汚染がひどいと言うけど日本も空には放射線が飛んでいるから同じようなことだ」と言われて風評被害の恐ろしさも実感しました。私自身性格が大きく変わったなどということはありませんが、人間としてひとまわりくらいは成長できたのではないかなと思います。
もし、留学に行こうか迷っているなら、私は断然行くことをお勧めします。ちょっとでも知りたいことがあれば実際に自分で現地に行って自分で確かめたほうが純度の高い知識が

得られるでしょうし留学という経験はきっと自分にとってありきたりな言葉ではありますがかけがえのない一生ものの経験になるでしょう。
留学に行くことを許してくれて応援してくれた家族やサポートしてくださった教職員の皆さま、日本で応援してくれた友人、すべての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

卒業式が近くなるとオブジェが設置されてみんな写真を撮っていました

台湾でのよさこい祭りに参加しました。